

用語解説

あ行

IoT（アイ・オー・ティー）

Internet of Things の略で、モノがインターネット経由で通信することを意味する。従来インターネットに接続されていなかった様々なモノ（センサー機器、駆動装置、建物、車、電子機器など）が、ネットワークを通じてサーバーやクラウドサービスに接続し、相互に情報交換をする仕組み。「モノのインターネット」という意味で使われる。

インバウンド

外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。これに対し、自国から外国へ出かける旅行をアウトバウンド (Outbound) または海外旅行という。

インフラ

インフラストラクチャ (infrastructure) の略で、道路や鉄道、上下水道、電力網、通信網、かんがい・治水施設などの公共的・公益的な設備や施設、構造物などを指す。

AI（人工知能）

Artificial Intelligence の略で、人工知能と訳され、人間の知的ふるまいの一部を、ソフトウェアを用いて人工的に再現したもの。

SDGs（エス・ディー・ジーズ）

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略で、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール（なりたい姿）・169のターゲット（具体的な達成基準）から構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っている。

狭あい道路

幅員 4 m 未満などの狭い道路のこと。

健康寿命

WHO（世界保健機関）が提唱した指標で、日常的に介護を必要とせず、心身ともに自立して暮らすことができる期間のこと。

自助・共助

自助とは、自分自身や家族の命と財産を守るために、自分や家族で取り組むこと。

共助とは、地域に協力したり、地域の方々と活動を行ったりするなど、周りの人達と助け合うこと。

自然増減

一定期間における出生・死亡に伴う人口の増減数のこと。

社会増減

一定期間における転入・転出に伴う人口の増減数のこと。

生産年齢人口

年齢別人口のうち、生産活動の中核をなす年齢の人口層を指し、15 歳以上 64 歳以下の人口のことを指す。

Society5.0（ソサエティ 5.0）

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会をいう。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第 5 期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

た行

町内総生産

1年間に町内で行われた各経済活動部門の生産活動によって新たに生み出された付加価値の貨幣評価額をいう。これは町内の生産活動に対する各経済活動部門の寄与を表わすもので、産出額から中間投入（原材料、光熱費等の経費）を控除したもの。なお、ここでいう「生産」には農業、製造業などの物的生産のほか、卸売・小売業、金融・保険業などのサービス生産や、農業や水産業などで自家消費に充てられた生産物や所有者自身が使用する住居（持家）のサービスなど本来貨幣交換を伴わないものも含まれる。

都市のスポンジ化

都市の内部で空き地や空き家がランダムに数多く発生し、多数の小さな穴を持つスポンジのように都市の密度が低下すること。

は行

ビッグデータ

インターネットの普及やコンピューターの処理速度の向上などに伴い生成される、大容量のデジタルデータで、一般的なデータ管理・処理ソフトウェアで扱うことが困難なほど巨大で複雑なデータの集合を表す。

や行

要介護者

介護保険サービスを利用するため、町に介護認定を申請し、身体能力の衰えや認知症などにより、日常生活を営むのに介護や支援が必要と認定された人のこと。

ら行

老年人口

年齢別人口のうち、65歳以上の人口のことを指す。